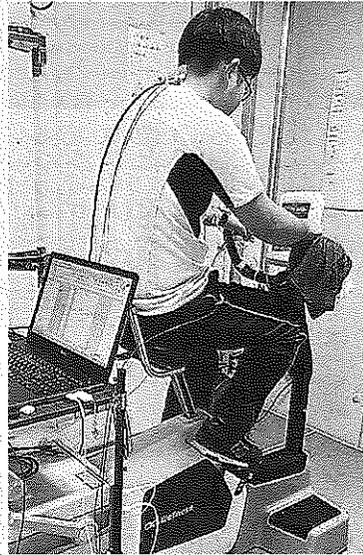


信州大発ベンチャーのスキノス

製品評価サービス開始

高度な発汗計測など生かす



スポーツウェアの評価試験の様子

信州大学発ベンチャーのスキノス（長野県上田市）が、アパレルや寝具など繊維製品を想定した製品評価サービスを始めた。同社は独自の発汗センシング技術を活用した製品開発や、人の体温調節機構と健康管理に関わる生体情報解析技術の研究を行っている。これらの技術・知見を生かし、1件当たり5万円から製品評価試験を請け負う。

同サービスは、製品による人体への作用を計測したい事業者向けだ。とりわけ中小規模の事業者を、主な

対象とする。「中小規模の事業者にとって、製品評価試験にかかるコストは負担が大きい」（同社）と考えるからだ。

例えば、「機能性繊維の特徴や、着心地を生理学的な実験データで確認したい」「暑さ対策製品で体温上昇や発汗量をどれくらい抑えられるか確認したい」といった要望を想定している。

測定メニューは、局所および全身の発汗量をはじめ、心拍数、皮膚温度、深部体温、環境温度・湿度、

心拍変動解析（自律神経指標）、皮膚血流の測定、呼吸数の測定、筋電図測定、呼吸代謝測定（消費カロリー）など。

試験の流れは、試験内容の打ち合わせと見積もりを経て、成約すれば発注側が試料を提供する。基本的に試験場所はスキノスで、同社が被験者も用意する。なお、発注側が試験場所を指定する場合は、発注側が被験者を用意する。成約から試験データの納品までの期間は、最短1カ月を目安としている。

同社の設立は、1981年に信州大医学部と長野工業高等専門学校が中心となって発汗計を開発したことがきっかけ。98年には現在開発中の熱中症対策用スマートウォッチ型デバイス「WLS-1000」の基になる機器を開発し、同年にスキノスを設立した。

03年には、発汗計が医療機器として承認された。17年には新体制となり、事業活動を本格的に始めた。このほど、WLS-1000の改良版を発表し、年内に数量限定で販売する予定だ。